

日本
共産党

「懸念」だけで5億円

「いざきロード」2期工事は中止を

流山市のR5年度決算。日本共産党は、市民の福祉・教育を充実する財源を確保するべく、ムダな公共事業の実態を暴露し、追及しました。

おおたかの森西・南地区を結ぶ『センター地区道路』は、区画整理により、歩道がついた道路が一度、整備されました。しかし、市長指示の下、新たに再整備に着手。不要不急な工事、「いざきロード」と市民から批判の声が聞かれます。

日本共産党の質疑に対し、担当課では、「車と歩行者の錯乱が懸念される」とし、「総延長499㍎・総事業費5億円（1期工事260㍎・3億1千万円、2期工事239㍎・1

8億円）」「1㍎当たり105万円」と回答。市長は「市民からの苦情はない」とし、「歩いて楽しい道路と指示を出した」と答えました。

そもそも、多額な経費と労力を割き、一度、整備済みの事業を再整備する場合、請願等もなく、行政上の不都合もなく、「懸念」だけで着手した例は他にありません。着手していない2期工事は中止し、ムダ使いをやめるべきです。

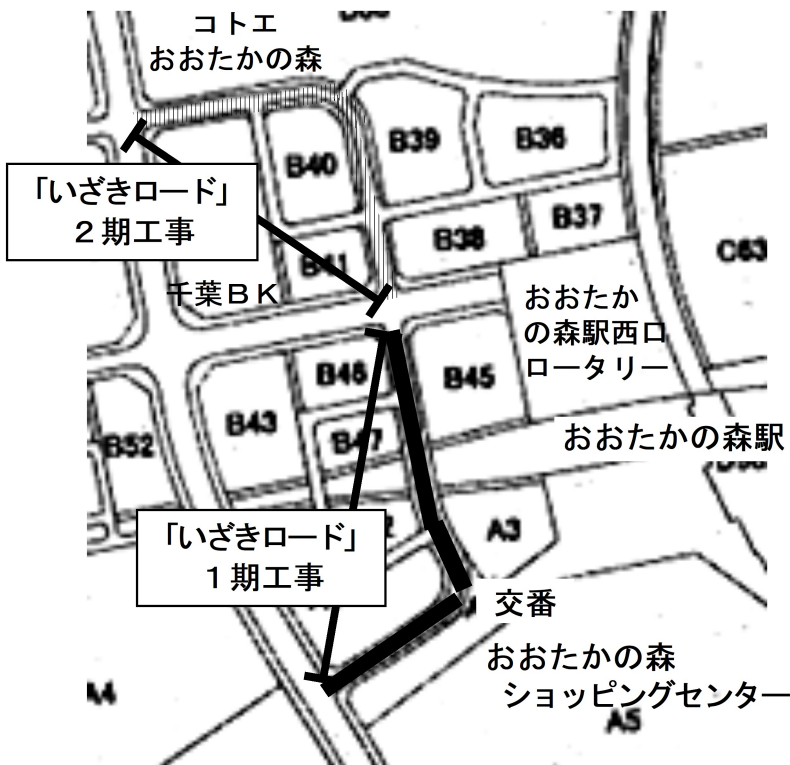
夜間小児救急

大幅な時間短縮

無駄な事業に大盤振る舞いする一方、「夜間小児救急」は、10月1日～、19時～23時までの4時間に変更に。これま

市の負担金は、6年も据え置き。その負担金も時間単価はたった6800円と、深夜勤務する医師の時給の半分以上です。

で21時～翌朝8時のまでの11時間の大幅短縮です。電気代の等の高騰に伴う救急現場の経費が増大しても、市は「増額はできない」「（いざきロードや日みさみニューシアムへの公費拠出と救急医療への公費の大小）対比すべきものではない」と回答するだけで



市長肝いりの「ツーリズム」

お先真っ赤!?



おだぎりたかし

日本共産党 流山市議会議員

市長肝いり「ツーリズム」の推進役と期待される官民連携「株式会社流山ツーリズムデザイン（以下、流山DMO）」は、市長の指示で2019年に設立。2500万円分の株を市が購入しました。

しかし赤字経営が続き、累積赤字は、22年度4362万円、23年度6177万円へと大幅に増加しています。

そのため、公的資金を23年度5370万円、24年度8275万円を投入しました。次年度以降は、1億円を超えることに。

そもそも流山市は、観光地ではなく、ベッドタウンです。また流山DMOは、豊富な観光資源を持ちあわせていないため、23年度7千万円を超える「年間売上」といっても、76%は公的資金です。

不要不急の施策への大盤振る舞いとその継続を中止し、市民目線で見直すべきではないでしょうか。



官民連携「株式会社」に公的資金

年度	決 算 額	
	観光費	商工振興費 (融資に要する経費は除く)
2019	9390万円	5644万円
2020	2億3154万円	1億2351万円
2021	9466万円	1億4123万円
2022	1億8305万円	5254万円
2023	5億9719万円	7650万円

井崎市長就任から22年。市長肝いりとあって、観光費（ツーリズムに要する経費）が膨れ上がっています。

23年度は、当初予算1億5612万円から、年度途中に、白みりんミュージアムの建設費などのために約4億5千万円を増額しました。

いっぽう、約4千社にぼる市内事業者への振興費は限定的な内容に終始し、1社当り年間1万8000円しか経費が確保されていません。